

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて プロバス・ライフを楽しもう』

第131回例会 日 時：平成18年9月14日（木） 12：30～14：30 場所：八王子エルシィ

出席者：50名 出席率81%（会員総数66名 休会4名）

1. 下田例会委員長の司会で開会

2. 濱野会長挨拶

本日も南ロータリークラブから2名のご来賓をお迎えして例会が行われることを感謝しております。先週の9月6日、秋篠宮に悠仁親王がお生まれになり日本国民が喜びに包まれ、本当に良かったと思います。皇室典範の問題が巷には流れていますが、健やかな成長をお祈りしたいと思っています。

例会の1週間前に理事会を開きまして、この例会の準備をしております。最近の理事会は面白くて楽しい理事会になっており、熱気あふれる理事会をこの場で表現できないのは残念ですが、取り組んだ2件の課題について提案し、皆様のご了解を得たいと思っております。

1つは資料の中にありますが、12月の例会の日を目指して「私のお宝見せます」年忘れ大会を開きたいと思っております。これにより皆様の例会での話題が増え、また会員相互の親睦が広がることを期待しております。私の宝物というと孫だとか女房だとか旦那だとかですが、連れてきてもらっても会場に入りきれません。後で澤渡委員長の趣旨説明を聞いていただき、是非とも一人一点は参加していただきたいと思っております。

2つ目はプロバスクラブの認知度と知名度をいかに高めていくか、という活動でございますが、2、3の有識者、地元の実力者という方と相談させていただきました。やはり「井の中の蛙」では駄目だと、公の機関だとか、施設を利用して広報しないと駄目だと論されましたが、八王子市民活動協議会の下部組織である、八王子市市民活動支援センターへ現在アプローチをしてもらっています。後程幹事報告の中で触れさせていただきますが、皆様のご理解とご協力を賜って私の挨拶とさせていただきます。

3. 来賓紹介・挨拶

本日のご来賓：東京八王子南ロータリークラブ 会長 廣瀬武彦様 クラブ広報委員会委員長 堀上則夫様・会長廣瀬様 今年のメインテーマであります、ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールの関連事業としてアウト・リーチコンサート（別名出前コンサート）を私共クラブは11校を担当しております。先程第一回を開きました。演奏するのは音楽大学のボランティア学生ですが、小学5年生を対象に1時間半くらい、音楽室を利用してチェロを取り囲んで目の前で聴くわけです。意外と大きな音に感激した様子で感想文を拝見しても、非常な反応にびっくりしている次第です。小学生はとても可愛くて大変楽しい1日でした。

4. 新会員 川村真氏紹介



・紹介者杉山会員 川村さんは私の高校の1年後輩、北川会員と同期でございます。仕事の関係は八王子の行政一筋でございまして、当クラブの矢島会員、西志村会員の後輩にあたり大変真面目な方で早朝ウォーキングと料理教室に通われ模範的な高齢者のお一人です。今後のプロバスクラブの発展にも、地域奉仕の点から考えても大いなお尽力をしてもらえると期待しております。

・新会員川村会員 川村真でございます。今回縁ありまして皆様の会に参加させていただくことになりました。私は1936年に八王子の追分に生まれ、今年で古希を迎えます。五小一四中一立川高校一中央大学を卒業して、35年に八王子市役所入庁、平成9年建設部長を定年退職し、その後八王子観光協会、高尾登山鉄道、多摩信用金庫などに勤め、非常に苦労した時期もありましたが、今年6月リタイアして、ブラブラしていた処、杉山先輩からこのクラブの話をしていただきました。趣味は夫婦での旅行とゴルフです。この会のゴルフ大会を楽しみにしています。今後とも宜しくお願いします。

5. 幹事報告（鶴田幹事）

- 1) 入退会の報告 入会：川村真会員（会員No98）宜しくお願いします。退会：徳永保徳会員9月1日付退会。6月末から体調悪く、本人の固い決意のもと退会申し出あり、7月8月は理事会で休会扱いとした。
- 2) プロバスクラブの知名度のPR 八王子市民活動支援センターに、市民活動団体として登録。
同センターは八王子市から委託された八王子市民活動協議会の下部組織でまちづくり、教育、環境、福祉、国際交流、文化、スポーツなどの幅広い分野での市民活動を支援するため相談窓口、情報の収集、情報の提供など、また無料で利用できる会議室や諸々のサービスを行っている。この様なサービスを提供するセンターの情報や広報活動と、私共プロバスクラブの社会奉仕の精神とが絡み合って生かしていくことが出来るならば、今年度の運営方針の目玉である広報活動・認知度の向上に、その存在感を地域社会に広める絶好の場になりうると考えられ、種を蒔いて行く時期に来ていると思われる。
同協議会には塩澤会員が副理事長に就任しており、会員の中には大野バスト会長や武田会員もおられ、心強いものがある。また会議室の利用は生涯学習サロンを始め、他のもろもろの打合せに有効に利用できる。場所は八王子保健所の真向い「ファルマ802」の5階。正式会員としての入会には、今後理事会、並びにバスト会長会で慎重に審議して決めたいと思っている。
- 3) 会員のボランティア活動 ①アサヒタウンズの8月31日号の「いきいき健康」欄に、松尾信一郎会員の多摩動物園での活躍が報じられている。A4判で松尾会員の写真2枚と共に、日本ザルのいるサル山の前に立ち、観察のポイントや動物の生活など解説する松尾会員を紹介。毎週日曜と祝日に二ホンザルのガイドを続けて15年。東京動物園ボランティアーズ会員、年齢76歳、獣医師の資格を持つ。元気浚刺。
②池田ときえ会員が絵手紙を東急スクエアの10Fで展示。9月30日迄。夏の絵手紙、暑中見舞いの絵手紙。趣味を自分だけの為でなく人に伝えていくということは、立派な社会奉仕であると思う。

6. 各委員会報告

- 1) 例会委員会下田委員長 ①本日の出席50名、欠席12名、出席率81%。②他のプロバスクラブ例会出席の場合、当例会の出席扱いとする。③本日の配席は委員会別とした。④今回からメインテーブルにバスト会長を配席した。他プロバスからの来賓も同様とする。⑤本日は各委員会時間配分の為、卓話はお休みとした。⑥例会委員会の徳永副委員長が退会。大変協力的で明るい雰囲気の方で残念。元気になられることを祈念。
- 2) 情報委員会荒委員長 例会の記録は、約1時間30分の録音を担当者が文書に起稿する。大変な時間とパワーが必要。今回は阿部幸子会員が担当。70代のパワーに感謝。今回から例会の記録を署名記事とした。
- 3) 会員委員会澤渡委員長 川村会員入会（例会委員会所属）：会員数66名：休会会員4名：活動会員62名。新会員川村さんは料理が得意で、不肖ながら澤渡を含め料理人は2名となった。
- 4) 研修委員会米林委員長 野外研修は町田を中心として「武相荘」「旧多摩聖蹟記念館」「自由民権資料館」「国際版画美術館」を見学する。11月9日（木）予定。
- 5) 地域奉仕委員会矢崎委員長 来春の生涯学習サロンに関するアンケート調査まとまる。非常に内容の濃い面白いプログラムが組めそうだ。話し手の方には近々正式依頼状を出したい。10月の例会にはプログラムが発表出来ると思う。

7. 同好会の報告

- 1) 囲碁同好会矢崎幹事 10月26日～27日陣屋温泉にて一泊囲碁大会企画。会費15,000円奮って参加願う。
- 2) 歴史の会澤渡会長 9月19日クリエイトホール「歴史を知り八王子を探そう」、懇親会は「日本海 庄や」で。
- 3) お茶の会北川幹事10月10日（火）菊の茶会を阿部会員宅で会費1,000円。多数の参加をお待ちする。

8. その他「私の宝物」紹介。澤渡委員長 皆で楽しもう年忘れ「私の宝物見せます」大会

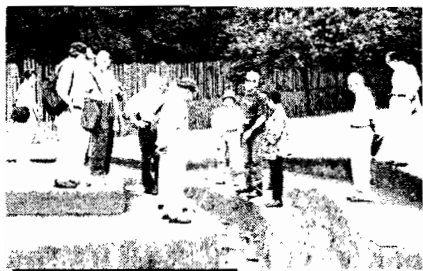
目的、会員のお宝を通じて、人柄や隠れた一面を披露して話題づくりとする。お宝の範囲、忘れえぬ品、思い出の品、趣味の品、卓上に置ける品を、全員参加で一人一点提出していただき、12月の例会日に開催する。お宝の由来物語を60字以内にまとめ10月例会に提出して欲しい。

9. 各委員会の打ち合わせ

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会代行 鶴田幹事 クールビズも今月で終わり来月から平常の服装に戻りますが、私は古いネクタイの中から何を選ぶか楽しみにしています。リタイアした後、月に1度ネクタイをする機会がある幸せを思い、来月も笑顔でお会いできることを楽しみにしています。本日はご苦労様でした。（例会記録 山元哲夫）

‘06年7月25日、横浜線は1時間ほどで、我々を八王子から2千年前の時間と空間・弥生時代に導いた。85軒の竪穴住居跡と高床倉庫と考えられる掘立柱建物跡が10軒検出され、その集落を取り囲む全長6百mのU字形の濠（環濠）からなる大塚遺跡。面積2万2千㎡。地続きで百mほど離れた場所に、集落に住んだ人々の墓であろうか、1辺が10～15mの四角い墓、周囲に溝を備えた方形周溝墓25基が検出されている（歳勝土遺跡）。弥生時代の人口が全国で80万人と推定される時期に、常時100人から125人が暮らす集落は大規模な村という。その村がそっくりこの現代に出現したのである。



横浜市はこの遺跡に弥生の茅葺竪穴住居を7棟、高床倉庫も1棟復元し、竪穴住居跡も数棟分型取りし展示、さらに環濠は地下の遺跡を保護するため深さ1.5m程度（実際は2.5m）に復元し、集落を防御する土塁と木柵を築いて、隣の方形周溝墓を含めて大塚・歳勝土遺跡公園として整備した。隣接地には立派な横浜市歴史博物館を建設し、当遺跡の出土遺物の展示をはじめ、近隣の10数箇所の環濠集落（合計3千人）からの出土品も展示する。これらが鶴見川支流の早瀬川を中心とした地域が弥生時代中期後半には政治的に統合された“くに”（後の郡に相当）を形成するまでになっていたという。

また古墳時代になると、この地は都築郡となり、朝光寺原古墳群の1号墳からは鉄製の甲冑（ヨロイカブト）、刀剣など武器が大量に出土し大和政権との親密な交流があったことをも示していた。

こうした展示で弥生から現代まで時空が博物館の中で戻されると、広いと思った環濠集落は自動車道路などに3分の2ほど削り取られ失われていた。

今日の案内役は日本考古学会会員の久世辰男先生にお願いした。前記の概要は江戸時代の牛久保村の名主の家（旧長沢家住宅）都築民家園の座敷で解説された。驚いたのは、弥生時代は稲作と金属機器により、食糧生産が増加し、人口は増え、豊かで平和な暮らしがあったというイメージが崩れたことであった。近隣に環濠集落が10数箇所もあるということは、弥生時代はこの地域でも戦国時代であった証だという。久世先生は、大塚遺跡で復元された環濠の外側に土塁を築き、木柵を巡らした防御施設の有効性に疑問を抱き、論文を書いたら、佐原真先生（国立歴史民俗博物館館長）が面白いといって雑誌に載せてくれた。

これが契機となり、会社定年後、大学に入り考古学のドクターを取得し、この道を歩いていると自分の人生をも披露した。研究と博物館の案内役として、今日もボラティアとして我々を古代へ導いてくれる。

また、八王子から来ると言うので、ここ牛久保村の隣、山田村（7百石）に12人の領主がおり、その内10人が八王子から来た千人隊の組頭であったことも調べておいてくれた。

その後、横浜の中華街へ「歴史を肴に語ろう」と食事しに繰り出した。中華街の脇道に入った、小さな店の2階を借り切って、わいわいがやがや。温和な先生を肴に、古代史の超難題をぶつけるかと思えば、弥生土器はどうやって焼くのと、楽しく愉快に語らっていましたが、紹興酒の本数が増えると、あちこちに話題がとび、それぞれが語り部となって、会は盛り上がり、いつ果てるとも無く続いたのであった。

（会長 澤渡 進）



プロバスクラブとは

ロータリークラブの社会奉仕の一環として1965年英国で誕生し、ヨーロッパ諸国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダと世界各国に及び、日本でも90余のクラブが活動しています。プロバスクラブの語源は、PROfessionalとBUSiness personの夫々の頭3文字を取って作った合成語で、第一線を退いた専門的職業人や実業人が集まって、その豊かなキャリアを生かしながら互いに親睦をはかり、社会に貢献をしようという趣旨のクラブです。

東京八王子プロバスクラブは月1回の定例会合をもち、食事を共にしながら、講演を聞いたり懇談をしたり、また地域社会の為に出来る事があれば、積極的に行動して行こうというものです。従ってクラブは、非政治的、非宗教的、非営利的な団体であります。第一線を退いたとはいえ、なお若さや気力に溢れ実力のある方々が少なからずおられます。そのような方々に参加していただき、その貴重なキャリアや人生経験を、お互いの親睦や地域社会のために大いに生かしていただく、というのが設立の趣旨であります。



最近思う事

－ 8月15日が過ぎて－

多村 繁樹

8月29日から大学の同窓会の仲間総勢32人で、中国シルクロードの旅9日間を、大変疲れたが楽しんできた。旧満州国秦皇島生まれの私は、2歳で母親に連れられ、引揚げて来て、高校時代までは現北九州市門司区で、自然に恵まれたなか、チャンバラごっこやら、海や川・田んぼの用水路での魚釣りやら、貧しいながらも楽しい少年時代を過ごすことが出来た。戦争の悲劇、悲惨さは私自身の脳裏に焼きついているわけではないが、当時、米軍が小倉に駐屯しており、米国兵がジープに乗って、さっそうと通り過ぎて行くのを見て、戦争は二度と御免だと子供心に思ったものだ。そして、あの忌むべき戦争の責任者である、いわゆるA級戦犯の人が靖国神社に祀られるべきではないし、他の英霊にとっても迷惑であるというのが、国民感情と常日頃から思っていた。そういう中、月刊誌「正論」「諸君」をはじめ、産経新聞等で、東京裁判は確かに問題があるが、その裁判を否定するあまり、無謀で神がかり的な戦争に突入し、国民を塗炭の苦しみへと落とし入れた戦争責任をも風化させかねない論調が多く見られ、特に、戦争の怖さ等を知らない若い人達の中にそういう傾向が強くなっている事を苦々しく思っていた。

ビジネスの第一線を退き、暇も出来たので、月刊誌等を片っぱしから読み漁っているが、何か変だなと思い、今回3度目の中国旅行を機に思いつくままに書いてみた。

靖国問題の遊就館について、女性作家で評論家の方や、絞首刑となった軍人のお孫さんなどの発言・記述をみると、この人達は一体何を考えているのだろうか？ 自分は良く勉強していて、他人はしていないと断罪しているが、むしろ戦争当時の大陸でのいろいろな出来事の認識が浅い。そして戦後の日本は、広島・長崎そして沖縄の人々の大いなる犠牲のもとで、今日があることを片隅に置き、中国・韓国の反日に嫌悪し、偏狭なナショナリズムを高揚させ、何か歴史を忘れさせようとしている気がしてならない。

'02年9月11日の同時多発テロが米国のブッシュ大統領の逆鱗に触れ、イスラム原理主義対米国のネオコンとの戦いが、イスラエルを中心とする中東紛争をますます泥沼化させ、米国は日本どころの話ではなくなっている。そして一方日本は、中国・北朝鮮との首脳会談はおろか、韓国・ロシアとも肌合いが悪い。日本はこれからどういう方向にいくのか、どれが正しいのか、疑問に思うことも多いのに、国民の多くが脳天気で、気楽で、失礼ながら馬鹿さ加減丸出しというのが私の世相の捉え方だ。

郵政民営化をはじめ、時価会計の導入、不良債権の処理等が大成功だと日本経済新聞等が褒めたたえる小泉流の構造改革、パフォーマンス劇場型政治には、疑問符をつけざるを得ないし、そして米国とは良好な友好関係を築いたが、対アジア外交は最低だったこの5年間であった。これに対して国民の多くが、拍手喝采し、大騒ぎをし、「純ちゃん、こっちを向いて」等とうかれている姿をみると、アレー、何か変だなあ。こんなに軽薄な日本社会に何時の間になってしまったのだろうと思ってしまう。

企業業績が良くなって経済情勢もデフレ脱却が見えてきたとは言っても、君達の夫・父さんがリストラにあったり、自分の息子・娘さんが職もなく、フリーター・ニートになったり苦労しているんだよ。それでいて、中国・韓国の反日デモ等には神経質になり、アジア蔑視の欧米讃歌は理解を越える。海外に行ってロクなサービス、料理もなく景色が良かったくらいなのに、帰ってきたら素晴らしかったと絶賛している風潮にはウンザリする。

藤原正彦氏の「国家の品格」をはじめ、彼の著作が妙に説得力があり、共感するものがある。やはり、日本人は今一度、自分の国家・社会を真摯に見つめ直さないといけない。教育は国家100年の大計と言われる位時間がかかるが、日本独自のものが早急に求められている。

小泉政治から、安倍政治に変わり、日本がどうなるのか分からないが、役人・政治家の無責任、放漫運営のためとはいえ、増税が嫌だから国債に頼り、あげくの果てに、1000兆円の大借金を作り上げ、我々の貯蓄が藻屑と消えてしまったと思い知るべきである。アメリカの35代大統領、J. F. ケネディーの就任演説「祖国があなたのために何ができるかを問うより、あなたが祖国のために何を行うことができるかを問うてほしい。」を今一度思い出したい。我々はこれからの超高齢社会・少子化を乗り切る為に、何でも国が云々というのを卒業し、そしてもっと痛みを伴う事も覚悟しなければならないのだと思う今日この頃である。

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて プロバス・ライフを楽しもう』

第132回例会 日 時：平成18年10月12日（木） 12：30～14：30 場所：八王子エルシィ

出席者：52名 出席率80%（会員総数68名 休会3名）

1. 下田例会委員長の司会で開会

2. 濱野会長挨拶

クールビズも終わり今日から平常の服装に戻り、ジェントルマン、レディが多数揃いました。私は子供たちから「プロバスクラブって何」と問われて「紳士、淑女の小さな会だよ」と答えております。

今回も南ロータリークラブから4名のご来賓をお迎えでき感謝しております。後ほどご紹介しますが、当クラブも2名の新入会員を迎え会員番号が3桁の数字になりました、本当に喜ぶべきことだと思います。

本年度の会長実施事項に卓話の継続がありますが、「未だに誰もやってない、これは会長の話が長すぎるからだ」とご指摘を受けていますので手短にします。報告事項として、先月お話した八王子市民活動協議会への入会について、理事会、パスト会長会のご了解を得ましたので、正式に入会手続きをします。これにより八王子市民に対する当クラブの認知度の向上に役立つものと思います。

先ほど、南ロータリークラブの廣瀬会長から助成金を頂きました、プロバスクラブ発展のために大切に使用させていただきます。有難うございました。

3. 来賓紹介・挨拶 東京八王子南ロータリークラブ

会長 廣瀬武彦様 副会長 加賀谷恵様 幹事 西小野道德様 奉仕プロジェクト委員会委員長 市川和博様

- ・委員長 市川和博様 当クラブが支援するガスパール・カサド国際チエロ・コンクールは、世界29カ国から参加があって、第一次予選を終わり38名に選ばれた。これほど多数の参加があったのは、優れた審査員を迎えたことによる。これに関連して学校訪問演奏会やチャペルコンサートなども行い多くの市民が参加している。八王子市もメインの事業として取り組んでいるが、国際コンクールは継続しなければ認知されないの、第二回に向けてすでに資金面も含め方策を練っている。サポーター会員を募集しているので是非参加をいただきたい。

4. 新会員紹介 土井俊雄氏、戸田弘文氏



- ・紹介者野末会員 土井俊雄氏は教科書出版の帝国書院に10年間勤められた後、リコー教育機器（株）に移られ、東京支店次長、大阪支店長から関係会社社長を歴任した人で、優れた能力をお持ちなので、プロバス会員にふさわしいと思い紹介した。戸田弘文氏は父親が宮大工だったので建築の中で育ち、学校を出てすぐ一級建築士を取得、建築事務所を構え、また木造から鉄筋まで扱える（株）戸田工務店をも経営しているが、後継者が育ち、現在は奉仕活動などにも注力できる状況にあるので推薦した。



- ・新会員土井氏 プロバスクラブに入会出来光栄に存じます。当会の「プロバスクラブとは」や会則など読みましたが、まずは諸先輩方の活動を吸収して、私が今まで多くの方々にご指導いただいてきたことを、この会を通じて多少なりとも還元して行けたらと思っています。
- ・新会員戸田氏 野末さんの推薦を頂まして入会出来ましたこと感謝しております。私は生まれも育ちも八王子の追分なもので、このクラブの中の多くの方々のお世話になっております。なるべく足手まといにならないよう頑張りますので、宜しくお願いいたします。

5. 幹事報告（鶴田幹事）

- 1) 入会の報告 土井俊雄会員（会員N○99）所属 情報委員会、戸田弘文会員（会員N○100）所属 会員委員会、平成7年10月に33名で発足、当月11年目にして会員番号100番に到達した。
- 2) 八王子市民活動協議会入会。会費5千円は予備費で充当する。委員会やサークル活動に市民活動支援センターの会議室が利用可能、窓口を澤渡委員長にしたので相談されたい。
- 3) 全日本プロバス協議会第2回総会報告（立川副会長の資料報告）①活動計画、全国各地プロバスクラブはブロック毎で交流を深める。②世話人（役員）大部分留任、立川富美代会員も副会長として留任。③年会費2千円。
- 4) 各人の名刺 追加注文に多少時間が必要、早めに注文のこと。
- 5) いちよう祭り11月18・19日（土・日）、例年通りの内容、来月野外研修でお知らせするので協力を。

6. 各委員会報告

- 1) 例会委員会下田委員長 ①本日の出席52名、欠席13名、出席率80% ②本日の配席は委員会別ではなく、指定席とした。各テーブルに例会委員を1～2名配置。雰囲気盛り上げる役割を担当。③前回よりメインテーブルに歴代会長の席を設けた。今回は第6代平原会長にお願いした。④来月例会は野外研修でバスの中で行う。なお12月例会は開催時間が30分早い12時となっているので、間違い無きよう。
- 2) 会員委員会澤渡委員長 ①会員募集状況、3ヶ月経過3名の方にご入会いただき、会員数は68名となった。引き続き良き人があれば推薦状を常時持参しているので紹介されたい。②「私の宝物紹介」現在25名の申込。大人の会なので子供心を出して楽しみたい。勇気があれば奥さんの写真でも良い。まだ募集中、次回例会まで。
- 3) 研修委員会米林委員長 ①野外研修参加申込み、現在48名、バスの席まだ余裕あるので参加歓迎。②卓話、今回初めて実施。今後集中的に実施したいので、卓話の依頼あったら是非ご協力いただきたい。
- 4) 地域奉仕委員会矢崎委員長 サロンの準備順調に進行中。話し手の方に正式依頼状を提出した。話の概要説明を400字程度にまとめ10月25日まで返送依頼中。
- 5) 情報委員会荒委員長 外部へのPR用として「プロバスクラブとは」という囲み欄を設けた。

7. 同好会の報告

- 1) 歴史の会 ①9月の第3回参加者28名。11月24日第4回八王子近郊史跡と温泉、懇親会「日本海 庄や」。
- ②ふるさとの食を拓く会フォーラム 10月28日13時～八王子労政会館。費用1千円（無料招待券有澤渡迄）
- 2) 囲碁同好会 最近入会で碁を打つ方、是非参加を。10月26日～陣屋温泉で一泊囲碁大会あり。
- 3) ゴルフの会 南ロータリーとの合同コンペ、10月19日予定、5組20名。南ロータリーから賞品多数頂く。

8. 卓話 失敗の哲学 小林時雄会員



私は埼玉の県北の小さな呉服屋に生まれ、9人兄弟の大家族のなかで育った。親から家業の大切さを教えられ、勉強が嫌いだったので、学校も職業も親が云うままに、のんびり暮らしてきた。そして将来は呉服屋になりたいと思っていた。これが自分の人生の第一の失敗として大きく響いている。このために社会人になってどんなに苦労したかは語るまでもない事である。

家を守り家族を支えるということで、埼玉の小さな町で30才まで家業の呉服屋をしてきたが、小さな町ではいくら頑張っても、人口比という限られた消費の中で、逆立ちしても出来る商売は限られていた。それで昭和40年に八王子に来たが、私自身にとってこの出遅れ

感、これが第二の失敗の自覚で、これはもう取り返しのつかない失敗であった。このような失敗の中で自分自身をどう夢に向かってチャレンジしていくかということが、私が「失敗の哲学」と云い主張したいところである。日本の経済構造はバブルの崩壊により大変革をよぎなくされ、それと同時に消費者の購買意識も大きく変わった。流通もアメリカ流の「価格破壊」「流通破壊」につながる流通構造の大変化を遂げた。そのなかで多くの失敗を重ねてきたが、その原因、理由を解明し、新たな改革に挑戦して、失敗を乗り越えてきた。

小が生き残るための大きな課題。個の力の限界、既存の売場坪の限界、経営者が情熱と意思を持続する限界、他力本願の限界、商店街への依存の限界などなど。今の流通業界は規模に関係なく「自店の存在感」との戦いでもある。期間限定の特売価格ではなく「商品を安く売り続ける」ために、低コストを実現させることが企業課題であり「勝ち組」の条件である。

小さな小売業が大を制するには、豊富な経験と接客やサービスでは大型店に負けない満足とアドバイスを提供すること、専門店ならではの心意気と武器を持つことこそが最も大切な決意ではないだろうか。

過去、私自身が個人経営から専門店集団（ボランティアチェーン）を結成し、共同仕入れ構造を取り入れたことや、バブル時代の好景気を機に更なる事業の活性化を目指し、5年間かけてアメリカの流通を勉強した後、フランチャイズチェーン「（株）カーテンじゅうたん王国」を設立し代表取締役として就任したことも、大きな転換であり決意であったと自負している。

9. プロバスソング斉唱

10. 閉会 宮崎副会長 毎日秋を感じる季節になった。私は先日、高麗川の中着田で、曼珠沙華が群生して真っ赤な絨毯を敷き詰めたような風景に出会った。皆さんも機会があったら是非出かけられたい。(例会記録 荒正勝)

慎訃報 当クラブ会員岩岡茂之様 10月15日ご逝去 享年79歳 告別式 10月19日
こすもす斎場 謹んでご冥福をお祈りします。

追悼・岩岡茂之さん

石井 充会員



いかなる時も、温容の改まることがなかった。話題は六大学野球慶早戦の逸話、ゴシップなど(彼は慶応大学野球部マネージャー)から、それが生涯の仕事となった日本画の画壇・作家・作品についての造詣深い話題まで、止まるところを知らなかった。もとより、謙譲家であるから、当方が聞かないと話さないのだが、聞けば何でも教えてくれた。作品の質の良し悪しから、作家の人品の優劣まで知りぬいていた。

こんなに早く逝かれるとは思わなかった」と愚者のセリフは何時も同じだ。然し「聞いておくことがまだいっぱいあった」のは本当だ。惰夫の繰り言は尽きないのである。

岩岡さんは、江戸っ子の粹と、呼吸と、優しさを肌で教え、風の如く去った。酒も崩れることがなかった。

残念である。祈るだけである。この上はただゆっくりお休み願いたい。 合掌

突然の訃報に驚く

阿部 治子会員

九月の例会の折に来年の生涯学習サロンに「また茶の会を是非と、多くの皆様から声がかけています」「また私も話をする人の仲間に加えておいて下さい」「十月の茶の会は出席します」との言葉が最後でした。茶の会においては、皆様にも陶芸の知識と見方、箱書きの見方、紐の結び方、など…。お茶一服飲んだ後は「結構で御座います」と云うと何服でも出てきますので「十分に頂戴いたしました」とおっしゃって下さいとのご指導。今では皆様がその教えを守る様になりました。

私の家のキナコ(猫)は、皆様がお揃いになると、お一人おひとりの膝の辺りで止まり顔を見上げ、やがて椅子に座っていらっしゃる岩岡さんの膝の上に座り込みます。そしてお互い何かを話し合っています。この儀式は毎度の様に行われました。岩岡さんがお休みになると誰れ云うともなく「今日はお休みですよ」と云い聞かせるとスーと何処かへ行ってしまいます。今は岩岡さん専用の椅子に待つかの様に座り込んでいます。語り口のやさしさ、美に対してのひたむきさ、人として毅然さ、最後まで生きることの喜びを私に深く教えてくださいました。美学を大切にする教養人でもあり知識人でもありました。茶の会におかれましても大変な理解を示されご指導していただきました。会員一同深く感謝しております。慎んでご冥福をお祈りいたします。

慎訃報 当クラブ会員近田正人様 10月23日ご逝去 享年72歳 告別式 10月26日
八王子総合ホール 謹んでご冥福をお祈りします。

哀悼の辞

会長 濱野 幸雄



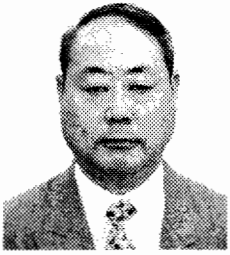
近田さんは当クラブに7年前に入会されました。誠実で真面目な性格をお持ちで誰からも愛され信頼され、特にこの2年間は文学的センスの高さから情報委員会より所望され月報プロバス日より、毎年配布される学習サロンの冊子、10周年記念誌などの編集に携わり内外にクラブの知名度を高めて頂いた事は深く感謝しております。

現役時代は農用地整備公団経理部調査役としてご活躍され、北海道・岩手・沖縄と転じ、終の住処を八王子に求め退任後は私たちの仲間に加わって頂きました。

趣味は囲碁三段と郷土史研究で、生まれ故郷北海道では学生時代に「郷土史研究部」で考古学を担当、またアイヌ文学に造詣を持たれたようですが、現役時代にアイヌ語を勉強する暇がなく、将来のために大好きな酒代を節約してアイヌ語や郷土史の資料を集められたと聞いています。先日もアイヌ語「パウチ」と英語の「パウチ」は同じ発音だが意味が全く異なるという面白い投稿を頂きました。もっともっと研究の成果を期待しておりましたのに残念です。貴殿がクラブに残された存在感は私たちの歴史の中に深く刻まれていきます。

近田さん安らかにご永眠下さい。慎んで哀悼の意を表します。

儂く過ぎし日々



市川 昌平

会社人間でなんとなく人生の過半を過ごしてしまったが、気がついたら両親の年齢を超えて生きていることになる。両親とも平均寿命に達しない歳で他界してしまったが、戦中、戦後の医療も進歩していないすべてが十分でない時代に、人生をエンジョイする間もなく逝くことはさぞ無念なことだっただろうと思う。

今、緑の多い八王子の外れに居を移して10年になるが、“どちらのお生まれで”と聞かれることがある。“どちらの生まれ?”といわれても家系図があるわけではなし氏素性がはっきりしているわけでもないから、素直に生まれは牛込の山伏町で物心がついた頃には新小川町に住んでいたと答える。近くに吉岡弥生の赤レンガ塀の大きな屋敷があった。築土八幡神社、神楽坂の近くであったから入学は当時の津久戸国民学校だった。学校としては創立が明治30年代の古い学校だったらしい。昭和8年に建てられたという校舎は戦火に耐え、現在も昔の佇まいで津久戸小学校として存在するが、残念ながら散りぢりになった級友たちの消息が全くわからないのが残念でならない。

都心ではあったが今と違い電車通り以外はそんなに危ないという感覚も無く、近所の子たちと築土八幡や毘沙門天の境内などでよく遊んだ。勿論戦争ごっこやチャンバラが主流だった。靖国神社には軍神が祀られているからと月に一度は親に連れて行かれた。今、考えると飯田橋から九段までたいした距離ではないのに随分遠くまで出かけて行ったような気がしたが、帰りに市ヶ谷見附でボートに乗せてもらえるのが楽しみでついていったのだと思う。

学校の裏の神楽坂は表通りを一步入るともう別世界だった。細い石畳の道には人影もなくかくれんぼや探検ごっこにうってつけの場所だった。今考えると大人にも情緒あふれる別世界だったのかもしれない。

昭和20年、学童疎開が始まってしばらく経ち、私たちも幸い長兄の勤めの縁で上野市（今は伊賀市）に疎開した。初めて乗った夜行列車は途中浜松あたりで空襲に遭い灯火を消した真っ暗な不安な夜を過ごした。ようやく名古屋についた朝、駅前街や消防自動車はまだくすぶって空襲は恐ろしいと印象に残っている。

今では交通網も整備されて便利になったが、当時は名古屋から3時間近くかかる不便なところだった。見知らぬ新しい土地への期待と不安はつの中、伊賀上野駅が近づく小山のような高台に城がそびえて見えた。

疎開先の家は城下の本町筋にあったが、着いた夜、風呂で第一のショックを受けた。大きな釜に丸い板が浮いているのだ。木の風呂と銭湯しか知らなかったから驚いた。しかも湯に入ろうとすると丸い板が前後左右に傾きうまく沈んでくれない、体重が浮力に負けるのだろう。板は反撥するし掴るところも無い。板がひっくり返れば鉄釜の底に直接触れると思うとこれは怖かった。今では耳にすることもない五右衛門風呂だった。石川五右衛門が釜茹でにされたという大鍋の風呂がますます怖くなったが数日して何とかバランスが取れるようになった。薪割りや薪の焚き方を覚えたのもその頃だった。

私たちに限らず疎開っ子は何処でもいじめられたらしいが、東京からの疎開児童はほかに居なくて、土地っ子、忍者の末裔たちに随分いじめられもした。他愛も無いことだが言葉や体力、学力の差や風土が原因だったのだろうが、彼らからは東京っ子にない逞しさも学んだ。当時のイジメも彼らにとっては、遊びに過ぎなかったのかと思う。

四方を山で囲まれた田舎まちの良さを知ったのは祭りだった。藤堂高虎の治世から300年以上続くといわれる天神社の祭りで10月23日の宵宮から25日の本大祭まで町中が祭り一色となる。24日午後と25日は学校も休みになる。大人も子供も近在の人たちも一体となって盛り上げる祭りが好きだった。神輿や山車がぶつかり合う熱狂には程遠いゆるゆるとした雅な祭りだったが、神輿に続いて悪疫屈伏、五穀豊穡を祈念する大御幣、役行者を先頭に異形な面をつけた百数十体のさまざまな鬼が巡行、贅を尽くした絢爛豪華な刺繍を施した飾り付けの9基のだんじり（楼車）が狭い道幅いっぱいに行き交われる。

誰でもというわけではなく、だんじりを持つ町だったから揃いの紋付を着て鉦や太鼓のお囃子として誇らしくだんじりに乗る千載一遇のチャンスを得たが、チャンスを得られない子の方が多かった。時は儂く流れ、少年の頃の想いや体験をどう生かしてきたか胸が痛む思いがしてならない。

東京八王子プロバスクラブ
創立1995. 10. 18

プロバスだより

第133号

編集・発行・情報委員会
発行日 2006.12.14

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて プロバス・ライフを楽しもう』

第133回例会 日時：平成18年11月9日（木）8：45～10：30 天気：秋晴

場所：移動例会（野外研修車中） 出席者：44名 出席率 68%（会員総数 67名 休会 2名）

1. 下田例会委員長の司会で開会

始に10月15日にお亡くなりになりました岩岡茂之様と、10月23日にお亡くなりになりました近田正人様に哀悼の意を捧げまして黙祷を行います。「黙 祷」

2. 濱野会長挨拶

おはようございます。先ほど、委員長の話がありましたように、先般、お二方がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。その後、お二人の奥様方から鄭重なご挨拶を頂きました。その時、生前、主人がプロバスクラブに参加して、クラブを生き甲斐の一部として楽しませて頂いたと云う事で、くれぐれも皆様方によりしくお伝え願いたいと仰っておられました。近田さんの、お嬢様とお話をさせて頂きましたが、「父は、生前、私たち家族の者に『プロバスクラブはとても素晴らしいクラブだよ』と何度も云っていました。そのようなクラブに参加させて頂いた父親は、非常に幸せだったのではないのでしょうか」と話され、皆様方によりしくお伝え願いたいとお言葉を賜って参りました。

最後に、今日の研修を企画して頂きました研修委員会の皆様方に改めてお礼を申し上げます。実は昨日、図書館に行くと白洲次郎と正子を人名辞典で調べましたら次郎の名前がなく正子の方が載っていました。恐れ入りました。それで次郎の本を見つけたら、明治の非常に気骨ある男ということで、今日はその人柄に触れられると期待しております。

3. 新会員紹介 佐々木正氏



・紹介者杉山会員：私とは、相武カントリーのゴルフ仲間であります。お住まいは絹ヶ丘です。仕事の方は東京電力に勤められてから日本原燃の社長を務められ、現在は顧問をなさっております。大変明るい方で、昭和10年生まれ71歳ですが、バイタリティのある方ですので親睦に奉仕にと色々とお力添えをいただけていると思っております。末永くよろしくお願いいたします。

・新会員佐々木氏：私は、八王子には昭和48年から住んでおりましたので、33年ほどになります。仕事の方は、電力会社に35年勤めまして、その後転籍をしまして、青森の六ヶ所村にある、原子力発電の前工程である濃縮や発電後の使用済み燃料の再処理を主にする会社に11年ほど過ごしました。暫く八王子を離れていましたので、今後は地元のことを勉強しながら皆様とご一緒に活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

4. 幹事報告（鶴田幹事）

- 1) 入会の報告 佐々木正（ささき まさし）会員（会員No101）所属 例会委員会 よろしくお願ひします。
- 2) 岩岡茂之氏の奥様から、何かのお役に立てて下さいと3万円頂きました。有効に使わせていただきます。
- 3) いちょう祭り祭典委員会会長の犬野聖二様から濱野会長への協力依頼があり、私と地域奉仕の矢崎委員長とで打ち合わせをしてきました。11月18日・19日の二日間、所定の場所で会場内の秩序維持、来訪者の案内やグッズの販売等の協力をお願いします。（配付資料を基に詳細な説明があった）
- 4) 「君にとどけたい愛のコンサート」の件、立川富美代会員の代行説明。視覚障害を持つプロの演奏家による素晴らしいコンサートです。当クラブの大高秀夫会員・松尾信一郎会員・武田洋一郎会員が所属している八王子フィルハーモニー合唱団も参加しますのでよろしくお願い致します。12月15日（金）開演19時、いちょうホール

5. 各委員会報告

- 1) 例会委員会下田委員長 ①本日の出席44名、欠席21名 ②来月の例会は12月14日(木)12時スタート、お宝の受け付けは11時30分から行います。③次回例会日に新年会(1月11日(木)予定)の会費五千円を徴収するのでご準備願います。
- 2) 研修委員会米林委員長 本日のスケジュール説明旧多摩聖蹟記念館→武相荘→櫻屋(昼食)→自由民権資料館→国際版画美術館→八王子駅解散各館で学芸員の説明、武相荘は白洲夫妻の娘婿牧山圭男さんから説明を予定。
- 3) 地域奉仕委員会矢崎委員長 来年の第11回生涯学習サロンの日程とカリキュラムが確定した。概要紹介も記載されているので、サロン希望テーマ調査表を本日、遅くとも12月例会までに矢崎宛提出願います。
- 4) 情報委員会荒委員長 プロバスだよりに当クラブの創立1995.10.18を記載することにした。
- 5) 会員委員会澤渡委員長 ①11月の会員動向会員数67名。②「私のお宝見せます」の出品数は現在30点が出ていますので、12月例会前のイベントとして、楽しいお宝大会になりそうです。

6. 同好会の報告

- 1) 囲碁同好会 10月26日からの秋の囲碁大会で東山会員が優勝されたので報告します。(4頁、会員の活動参照)
- 2) 歴史の会11月24日(金) 八王子近郊の史跡と温泉を訪ねる。
- 3) ゴルフの会10月19日に南ロータリークラブとの合同コンペを開催した。1位、2位は南ロータリーの方だったが、3位は当クラブの中野会員でした。(4頁、会員の活動参照)
- 4) お茶の会 11月は「炬燵開き」で、お茶のお正月です。是非皆様何のご遠慮もなくご参加頂ければ幸いです。
- 5) その他「文化講演会(著作権の話と大正琴演奏)」の説明が武田会員からありました。

7. 閉会 宮崎副会長 今日秋晴れのもと、見聞を広めるという意味で一日を有意義にお過ごしください。

(例会記録 長谷川貴訓)

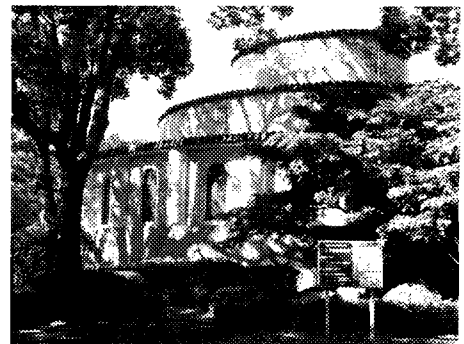
平成18年度野外研修 (移動例会終了後10時にバスは最初の目的地に到着、以下コース順に概況を報告する)

A) 旧多摩聖蹟記念館

明治天皇が兎狩りと鮎漁に訪れた聖地・連光寺を記念して建設された記念館。幕末から明治維新に活躍した志士たちの掛軸、書状などを中心に収蔵、展示。現在は都立桜ヶ丘公園、広さ123ha(37万坪)、大きな雑木林の丘を有する園内は市民の憩いの場所となっている。

会員のコメント

- *小学生以来・小学3年の遠足で来てから50年・60年ぶりに訪れました。(多数)
- *旧聖蹟の説明了解。*明治の人を身近に感じた。*明治天皇の雄姿像、明治の元勳の書蹟、周辺の紅葉が売り。*幕末に活躍された人々の書軸に大変興味を抱きました。
- *明治維新の一部を凝縮したような感じを受けた。徳川斉昭等の書の壮麗さに感動。*明治天皇は兎狩。自然の中を散策しよう。*施設は明治天皇の顕彰運動の一環としてのモニュメントだが、「精神文化の将来が国家の将来」という明治人の想いが改めて伝わってきた。*併設のギャラリーを利用してみたい。
- *多摩市の文化財管理姿勢に好感。*学芸員の説明がよかった。



B) 武相荘(旧白洲邸)

白洲次郎と正子の終の棲家。次郎は英国ケンブリッジに学ぶ。第二次大戦当初から敗戦を見抜き当地に移住し農業に従事。戦後、吉田茂に請われてGHQとの折衝、日本国憲法の誕生に立ち会う。GHQから「従順ならざる唯一の日本人」と評され、後に貿易立国の政策を推し進める通産省設立に関わる。吉田首相の特使として平和条約の下交渉。サンフランシスコ講和会議に全権顧問として同行、沖縄施政権返還を盛り込ませる。生涯在野を貫く。

白洲正子、樺山伯爵家の次女、米国に留学。帰国後次郎と結婚、随筆、骨董の世界に独自の境地を開く、「あだ名章駄天お正」。武相荘には二人の生き様を示す、藁葺きの農家を改装した住まいと数々の調度品、骨董など展示。

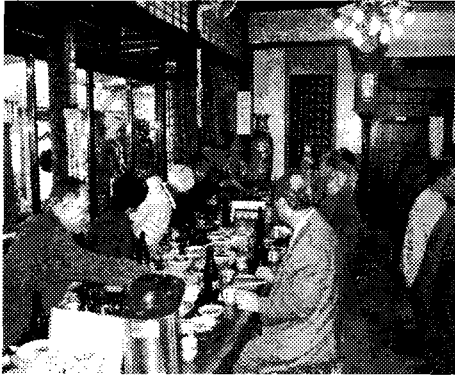
会員のコメント

- *白洲次郎氏関連の本をいくつか読んで大変興味を持った。*大変おもしろく、もっとご夫妻の著作等で学びたい。
- *武相荘という名称がいい。次郎、正子の事蹟も興味深く見学。*白洲次郎、正子の人柄判り、頭下がる。*NHK TVで見ていたが、あらためて白洲次郎の生き様を体感した。*最近NHKで再三放映され関心を持っていた白洲



次郎の住まいを拝見し、大いに感激した。＊一つの昭和史を知る。＊リタイヤした後はこんな生活がしたい。＊妻をつれて行ってやりたい。＊早くから英国、米国に留学し、欧米の知識センスを身につけたが、帰国して古い農場を終の住処としたのはやはり日本人か。＊庶民とかけ離れた過ぎた生活と感じた。しかし日本の戦後処理をした一員である事に尊敬の念がある。＊白洲次郎は20世紀を83年間生きた人だが、グローバルインテリ、モダンボーイ、和魂洋才の野人といった人となりか、終戦時の占領を背負った男の気骨の人生を髣髴とさせてくれる雰囲気充分な屋敷よし。＊戦後、GHQに対して（対等なもの云う）、こんな人がいたかと思うと嬉しくなりました。＊次郎のケンブリッジ留学時代の愛車ベントレー（1924年製）。人手に渡り絵葉書のみ ＊念願かなって見学できました。美学を備えた贅沢、とはこのことでしょう。

C) 櫻屋（昼食）



土間にテーブルを並べた鄙びた店、和風煮物、けんちん汁、蕎麦、追加はビールとお酒、シニアに大好評。

会員のコメント

- ＊エンジョイ出来たプロバス・ランチタイム。＊蕎麦がうまかった。煮物の数と旨さにびっくりした。（同感多数）
- ＊鄙びたおかずがいい。多少そばが遅れたのはご愛嬌。＊素朴な味わいの蕎麦を食わせながら、食べ放題の惣菜が山ほどテーブルに並ぶ。経営方針に感服の極み。
- ＊また来たい店ですね。

D) 自由民権資料館

明治天皇は公議輿論政治、立憲政治を約束。しかし明治10年ごろ、いまだ憲法も国会もなく、国民には租税負担と徴兵義務のみ課せられていた。このとき自由民権を旗印に、憲法制定、国会開設、国民の政治参加をもって、後進国日本の危機を開開しようとする政治運動が全国的に起こり、多摩地域はその強力な拠点となった。当資料館はその運動の中核となる若者を教育した凌霄館跡の地に建てられた。自由民権運動に関わる資料多数展示、中には五日市で発見された五日市憲法（日本帝国憲法の草案）も展示。何故多摩地域に？なぜ地域上層の富裕農商民が運動のリーダーになったのか、学芸員の理路整然とした解説で、この運動の概要が理解できた。

会員のコメント

- ＊学芸員の説明が良かった。（同感多数）＊八王子に関係ある事が多く学びました。（同感多数）
- ＊三多摩の歴史を感じ、知り、誇りを覚えた。＊自由民権の努力、五日市憲法の話は凄い。＊民意の成長過程を学ぶ。
- ＊自由民権運動が全国に先駆けて起こったことは、多摩市民として誇りに思いました。
- ＊伝統的価値観と近代的価値観のはざまで揺れ動きながら、地域の指導層が自覚的に自由民権思想を形成していく過程を再確認。多摩人の誇り。＊自由民権をもっと幅広く、国全体に広げた展示も必要ではないか。＊時間不足展示資料に目を通せない。

E) 国際版画美術館

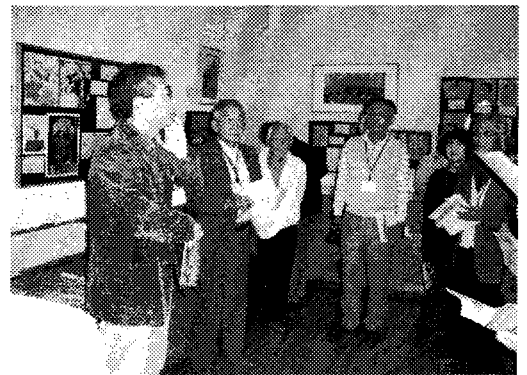
世界でも数少ない版画専門の美術館。1万8千点に及ぶ収蔵品を持ち、古今東西の版画の歴史をカバーし、版画のことなら全て理解できることを目指す。常設展を無料で開催。今回はリトグラフ（石版画）名作展としてロートレック、ドラクロワ、ピカソ等の作品を観る。且つ、飯田善国の企画展も開催していた。

会員のコメント

- ＊リトグラフは化学処理作業で生まれる職人芸とのこと、今頃知るとは当方如何にも勉強不足か。
- ＊美術については門外漢ですが、版画の種類についていろいろ学べた。＊何故町田で版画が分からないが、市民が芸術（アート）を楽しむ、自ら創り出す場、ハイビジョンギャラリーは良かった。
- ＊飯田善国展を鑑賞、氏は町田市が生んだ近代彫刻の第一人者で、併せて詩人の才も煌めいた人との解説あり、作品共通の感性は広くは「人間愛」と受け止めた。＊公園と美術館、市民の散歩道と一体化は良い。単なる箱物行政にならない様祈る。
- ＊企画展300円払った価値あり。学芸員の説明によるかも。＊一万点を越える作品ストック有りと聞く、町田市の実力に驚嘆。

会員の総合コメント

- ＊今回の隠された研修テーマは憲法か。五日市憲法→明治憲法→戦後の新憲法。＊有意義な一日でした。＊近い所での企画が上手だったと思います。＊米林委員長以下研修委員会の方々に感謝。



会員の活動

ゴルフの会 第1回プロバスクラブ・南ロータリークラブ合同ゴルフコンペ

1. 開催日：平成18年10月19日（木）
2. 開催場所：武蔵野ゴルフクラブ イン・アウトコース
3. 参加人員：4組16名（南RC9名・PC7名）
4. 成績 優勝 高井 昇（南RC）ネット68.8
準優勝 高橋 隆（南RC）ネット72.0 第3位 中野義光（PC）ネット72.8（敬称略）

天候にも恵まれ、周囲の木々の紅葉にはやや早い季節で、汗ばむ気温の中、和気あいあいとプレーを楽しむことが出来ました。今回初めて両クラブの合同ゴルフコンペを開催してみました。初めてお会いした方々も多くお互い名前と顔が一致しませんでした。コースを回る内に理解しあい十分に交流が図られ、今後の活動に生かされる事と思います。結果は、中野会員の3位入賞が最高位で南RCとの実力の差は明らかでした。しかし諦めることなく今後も精進し、交流の輪を広げたいと思います。今回も南RCの方々から多くの賞品が寄贈され、大会を盛り上げていただき感謝と共に報告いたします。追伸、開催日当日と告别式（岩岡茂之氏）が重なるなど不運な面がありましたが、三役の配慮によって大会を縮小しコンペを開催する事ができ、成果を得て無事終了致しました。

（記録 小林貞夫）

囲碁同好会だより 恒例となった囲碁クラブの一泊囲碁大会が、10月26日午後から27日午前にかけて陣谷温泉にて開催された。今回は、囲碁同好会に所属していた近田会員の不幸と重なり、従来より4～5名少ない8名の参加で、リーグ戦が行われた。紅葉には3週間ほど早い周囲の山々を見ることも無く、昼食の“そば”もそこそこに熱戦が展開された。夕食までに4局、夕食後に2局、翌午前に1局と順調に対戦が進んで、表彰式となった。優勝は、5勝2敗の成績で、最近急速に進歩し、堅い碁を打つ東山会員でした。おめでとう御座います。

（記録 山崎修司）



投稿

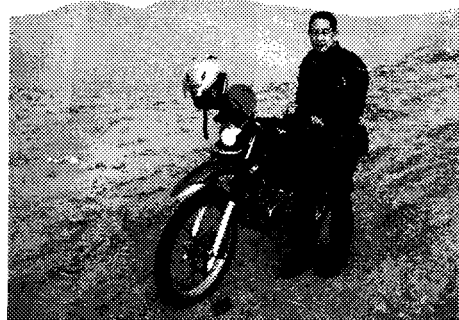
「シルクロードをバイクで走る」

長谷川貴訓

<林住期>を過ぎ、全てを捨て放浪の旅に出る最後の<遊行期>と洒落たのではありません。『何時かはシルクロードをバイクで走りたい!』これは、若いときからの夢でした。しかし、言葉・故障・国境・病氣・治安等マイナス面ばかりが頭に浮かび、到頭実現できず還暦を過ぎてしまいました。ところが、そんな長年の夢を叶える千載一遇のチャンスが2006年5月に訪れたのです。バイク冒険家で有名な加曾利隆さんと走る『シルクロード横断の計画』を知った

のです。63歳の年齢で、しかもバイクの経験も乏しい私ですが、これを選んだらもう二度とめぐり合えないと思い、なんとかグループに入れてもらいました。直ぐにバイクを購入し、訓練をして、大慌てで旅行の準備をして、8月15日に八王子を出ました。中国→キルギス→カザフスタン→ウズベキスタン→トルクメニスタン→イラン→トルコ7カ国を通過して、10月12日に無事目的地のイスタンブールに到着しました。本当に、チャンスはキャッチですね。（来年5月サロンで講話予定）

いちよう祭り 11月18・19日、第27回八王子いちよう祭りが黄葉のいちよう並木を背景に甲州街道追分交差点から、小仏関所跡までの沿道の



各会場で昭和の日制定を記念して盛大に行われた。会員はプロバスクラブとして協力参加し、また他のボランティア団体の一員として参加するなど、活動が各所で見られた。いちよう祭り祭典委員会会長の大野聖二会員と一部会員の様子を写真で紹介する。



新春をむかえて

濱野 幸雄

明けまして、おめでとうございます。平成19年の新春をご家族共々お健やかに迎えになったこととお慶び申し上げます。

「豊かさを求めてプロバスライフを楽しもう」のテーマで始まった2006～2007年度も前半が終わりました。この間に八王子市民活動協議会への入会、また地域行事への積極的な参加などによって、わがクラブの知名度向上への努力を進めてまいりました。年末には新企画の「私のお宝見せます」大会の成功により、会員相互のコミュニケーションの活性化が図られ、皆様のご協力で着実に成果を残すことが出来ました。

後半は2月から始まる第11回生涯学習サロンへの全力投球となりますが、ご参加下さる方々が、毎年進化するサロンを楽しんで戴けるよう総力をあげて、実り多い結果が残せますよう一段のご支援とご協力をお願い申し上げます。

第134回例会 日時：平成18年12月14日（木）12：00～14：30 場所：八王子エルシィ

出席者：58名 出席率89% （会員総数67名 休会2名）

1. 下田例会委員長の司会で開会

2 濱野会長挨拶

師走に入り、何かとあわただしい季節になりましたが、本日も南ロータリークラブから多数ご参加を賜り感謝申し上げます。

11月は移動例会がありまして、これは研修委員会が企画したのですが、八王子近郊にもこんな素晴らしい所があったのかと、驚くような所を見学させてもらい、その上お昼には櫻屋という趣のあるお店に初めて案内され田舎料理でしたが非常に堪能させていただきました。優れた企画であったと思っています。今回配布されましたプロバスだより、会員の皆様のコメントが載っておりますが、これを見る限り、この研修は大成功であったと思います。有難うございました。

また中旬には、いちよう祭りに大勢の会員が参加し会を盛り上げて頂きましたことにお礼申し上げます。

最後になりましたが、周りをみますと、今日は綺麗な、和やかな雰囲気になっておりますが、当クラブ始まって以来の企画で「私のお宝見せます」大会を、澤渡委員長を中心に企画していただきました。この展示品、企画を通じて、皆様方会員どうしのコミュニケーションが更に活発になって、プロバスクラブは本当に楽しいクラブであるなと感じていただけたら、我々としては非常に嬉しいと思っています。

3. 来賓紹介

東京八王子南ロータリークラブ 会長 廣瀬武彦様 副会長 加賀谷恵様 幹事 西小野 道德様
坂本ガバナー支援委員会 地区協議会担当 副委員長 中島 郁夫様

4. 幹事報告（鶴田幹事）

1) 只今、濱野会長からのお話の通り、野外研修会は生涯学習サロンと共に当クラブの公式行事の一つである事が、強く印象付けられた今月号のプロバスだよりでございます。また見学の最中はプロバスクラブの会員としての、立派な行動を取って頂きました事を厚く御礼申し上げます。

2) 11月18・19日は大野バスト会長を初めとする市民参加の手作りの祭りで、これにプロバスクラブはA及びDの会場で通行手形の販売や場内の秩序維持などを行いました。参加頂きました会員、激励にお出で頂いた皆様方、有難うございました。また地域奉仕の山崎副委員長にはD会場のステージで生涯学習サロンの紹介を含めた挨拶をしていただき、地域活動に僅かでも貢献できた有意義な2日間でした。

- 3) 会員の活動①武田洋一郎会員が理事長をするNPO法人著作権推進会議の文化講演会が12月2日クリエイトホールで行われ身近にある著作権の問題が解説された。②12月15日いちようホールで八王子フィルハーモニー合唱団とプロとのコンサートに、立川富美代、大高秀夫、松尾信一郎、武田洋一郎の4会員が出演する。③12月19日～25日八王子市中央図書館で下山邦夫会員が趣味とするネックレスなどの金細工の展示会があります。
- 4) 1月11日の新年会は一人会費5千円ですが、年会費から2千円を補助いたします。

5. 各委員会報告

- 1) 例会下田委員長：①本日の出席58名、欠席7名。②配席は自由席。名札はお宝で使用。③メインテーブルには第3代野口会長にお願いした。④1月の例会は新年会を含め17時から20時を予定。後半の会費ほか2万円ご準備下さい。⑤1月度の卓話は阿部治子会員に「お茶の薬用」についてお話頂く予定。
- 2) 地域奉仕矢崎委員長：①第11回生涯学習サロンの資料を配布、身近な人を勧誘して欲しい。
②会員の方の学習サロンの希望調査票、未提出の方は今日中に私宛に提出願いたい。
- 3) 情報荒委員長：来月のプロバスだよりは特集号として、本日出品のお宝総てを掲載する予定。
- 4) 会員澤渡委員長：会員総数67名、当月まで入会4名、退会3名(逝去者2名)、新会員の加入にご協力を。
- 5) 研修米林委員長：①野外研修は参加44名で予定通り実施。後の反省会は29名参加で盛り上がった。
②1月の卓話は阿部治子会員予定。2月以降はこれから卓話依頼をするのでご協力を願います。

6. 同好会の報告

歴史の会：第4回は20名参加。第5回1月18日(木)9時20分 於八王子郷土資料館 講演「古代・中世八王子」同館学芸員戸井晴夫氏。懇親会は海苑12時10分から。

7. 「私のお宝みせます」大会

澤渡委員長の司会により大会が開始され、お宝大会の提案から準備期間の4ヶ月を経て、本日46人の会員から、それぞれ個人的に大切な、忘れぬ、思い出の品々が出品され、会場の周囲を飾ったことが披露された。

大会は第1部の「お宝拝見」から始まり、出展者の解説もあってなごやかに行われ、次いで第2部の「お宝講話」に移り11名の会員から、お宝に関わる由来など、演奏も交えて熱く語られた。その中で指名された4会員の講話の要旨を次に収録し、7会員については各々のお宝掲載欄に講話の一部を追記した。

お宝講話1) 57. 広瀬智子「小学校卒業文集『わか竹』」：昭和20年4月、女子師範を卒業したばかりの鈴木きみ子先生が八王子市立第四国民学校へ赴任し6年生の私達を担当された。その後8月の空襲で校舎は5分の4を消失。そんな状況の中で、先生は国語教育に力を入れ、俳句、短歌、詩など一生懸命教えて下さり、また課外でも暗くなるまで電灯の点かない教室で教えてくださった。その結果が卒業文集となった。先生は夜なべでガリ版を切り、紙の買えない時代で、休たい日には神田にまで出かけて行き紙を一締めずつ買ってきてはご自分で製本なされた。このように先生の思いが一字一字、1ページ1ページに刻み込まれた1冊で、私にとっては貴重な有難い感謝のお宝です。

お宝講話2) 63. 梅木松助「昭和初期製ハーモニカ」：1929年生77歳。5歳の時のお宝は音程が悪くなったので、別のハーモニカで思い出の2曲を演奏した。①「青葉茂れる桜井の」(湊川の訣別)作詞 落合直文、作曲 奥山朝恭。②「ロンドンデリーの歌」(アイルランド民謡)、会場から梅木少年に大喝采あり。

お宝講話3) 69. 阿部幸子「辞令」：昭和23年春、父を亡くし進学を諦め日本銀行に就職しました。出納局に配属され、お札の数え方の練習です。お札を横に開いて扇形にし5枚ずつ数えていくのが大変でした。でも慣れると手の感触でちょっと違うかと判るようになりました。またそこは男性優位の社会である事も知りました。給料は辞令では月280円でしたが、いろいろな手当が付いて月1千円近くになりました。父の死、残された家族の暮らし、進学、就職と私の生き方を考えた人生の節目の時でありました。この辞令は私にとっては、人生の新たな第一歩、スタートラインだったのです。

8. 講評・閉会 宮崎副会長 出品されたお宝は主催者の意を汲んで多くは僕のビー玉、私のお弾きのなもので大変面白くご披露して頂いた。来年も再来年も是非やってもらいたい。また今年は、皆さんのお力で会を盛り上げて頂き当クラブは立派に成長したと思います。来年もプロバスクラブの発展と皆さん方一人ひとりの健康を祈念して閉会の辞といたします。」

(お宝写真撮影 武田洋一郎、荒正勝、お宝大会題字 阿部和也、例会記録 荒)

2006. 12. 14

私のお宝見せま

出展一覧



04. 石井 充 「写真（1945年みずき通り）」

写真の原板は、アメリカ軍のニュース映画。空襲の戦果の報告です。偶然でしょうが、NTTの屋上からみずき通りを撮影。



07. 大串延子 「育児日誌」

現在90歳の長姉が、私の生まれた日から1年間つけてくれた金銭には替えられない私の宝物です。昭和10年代の世相も見られます。



10. 大野聖二 「『いちよう祭り』通行手形及び関連グッズ」

大型団地や大学等新しい八王子が出現した高度成長期、新旧市民の交流の場としての「いちよう祭」が有志の提案により昭和54年開催された。壮年期の思い出の品々。



12. 岡田 尚 「永仁の壺」

40～50年前、瀬戸の加藤唐九郎作の「永仁の壺」が話題になった頃、加藤う助さんが作った「永仁の壺」です。贋作につき価値はないと思う。



18. 北川博孝 「兜杯争奪戦 優勝時使用のバターと記念写真」平成9年4月、GMG八王子ゴルフ場での『兜杯』争奪競技会（ABC級各100名参加）で、B級優勝した際使用したバターと優勝記念写真。



23. 塩沢迪夫 「プロ・アマゴルフコンペの写真」

プロ・アマコンペ前夜祭の尾崎健夫との写真及び奥村ひとみ女子プロとの写真と記事（ゴルフダイジェスト）



24. 渋谷文雄 「胡桃割り人形」

出張先で小物を買うのが趣味。これは28年前、パリーは「蚤の市」の骨董店で求めたもの。家では银杏割りに使っています。



26. 下山邦夫 「手製の年賀状」

30年以上続けている手製の木版による年賀状です。下手糞でも、300枚近く摺るのは結構大変でしたので、努力のみ評価してください。



32. 立川富美代 「マヤ遺跡の土人形」

メキシコ・マヤ遺跡、モンテアルバンで買った遺跡から発掘した土人形。本物なら盗掘で手が後ろに回るかな？ それとも偽物？ 私の海外旅行のルーツ。講話：15年位前のこと、小さなピラミッドに登ったら後ろから髭のおっさんが出てきて高値で買われた。



34. 土井峻玄 竹製「鳥籠」(うぐいすかご)

生まれつきの動物愛好の性格は変わらず、20年前ぐらいに買い求めた、鳥籠作り名人の作です。一度もこの籠は使わなかった。



37. 野末孝雄「日本国有鉄道旅客駅一覧」(自家出版本)

昭和53年、息子が1年有余費やして纏めたもの。友人の印刷屋に本を作らせて呉れといわれて出来上がった。息子は平成13年白血病で死去しました。



40. 濱野 幸雄「色紙(1979年全日本アマ野球代表選手・役員のサイン)」キューバ在勤時、全日本ノンプロ野球チームが同国内を転戦。応援した時に全員のサインを貰った。後にプロで活躍した選手名もある。講話：団長山本英一郎、監督川島勝司、投手木田勇、捕手木尾考義、内野手石毛宏典など。



41. 平原俊彦「残しておいた最後の一枚のSPレコード」

このレコードは昭和6年ドイツで制作されたミュージカル映画「会議は踊る」(19世紀初頭のウィーン会議の様子を描いた)の主題歌「唯一度だけ」を収録したもの。この歌は戦前の若者、特に学生の間で大ヒット、戦後再上映され私たちも楽しんだ。



42. 藤野豊 「33歳のわが肖像」

青年法曹と呼ばれたころもあった。その肖像をお見せする。あわせて戦前のわが国の法曹の姿も見ることが少ないので、参考として展示する。



43. 古川純香 「両親の記念品」

父の遺作、随想、医業のかたわら書き綴った作品。嫁ぐ娘にと母からの大切な贈り物、ネックレス。この二点を父母の思い出と共に出品します。



45. 宮崎浩平 「私の閻魔様」

私の町には古くから閻魔様がいらっしゃる。昔は敷入にご開帳があり、多くの方が参詣した。閻魔講復活に因んで、友人より頂戴した閻魔様。



48. 吉田信夫「置賜民衆生活史」

亡き親父の書斎の原本です。自分が高校3年の時の出版で、私の読書の原点であり、上杉鷹山の調査の起点になっている本です。講話：同書は父義信が米沢藩置賜の民衆の生活史を調査研究し纏め米沢短大でテキストとして使用したもの。



52. 堀口 進「『アンネの日記』に匹敵するトランプ」

第2次大戦中のユダヤ人家族にまつわるトランプを、その家族の一員から頂いたものである。



57. 広瀬智子 「小学校卒業文集『わか竹』」

この文集は担任の先生の手製です。戦後の物資払底の中、日曜毎に神田で用紙を集め、手書きし、手刷りし、製本して下さったのです。（講話1参照）



59. 西志村光治 「はりまや橋の坊さん（高知土産）」

独身時代（50年前）、恋人に贈ったたった一つのプレゼント。私にとっては“宝物”です。なぜ私の手元にあるのでしょうか？講話：恋人は奥さんでした。



62. 鶴田金通 「『栄光をたたえて』の賞状、額」

文部省主催の全国中学校野球大会が明治神宮球場で開催。九州代表として出場。この事が私を建築の道へ進む要因となる栄光の賞状である。



63. 梅木松助 「昭和初期製ハーモニカ」高級ミヤタ東海楽器製造 5歳の時、父に買ってもらった思い出のあるハーモニカで、小学校1年生の学芸会で独奏した愛用のもの。(昭和11年の学芸会)(講話2参照)



65. 米林伸恭 「豆本」(辻邦夫 丸谷才一 他) 本の美しさ、楽しさを教えてくれた豆本。昭和47年頃古本市で買い、以降私の本の収集のきっかけとなった記念すべき一冊となる。



66. 武田洋一郎 「幼時の写真と徴兵保険証券」 満州からの引き揚げ時、母が肌身離さず持ち帰った家族や小生の写真や書類(徴兵保険証券他)です。



69. 阿部幸子 「辞令」 昭和23年春、大事な父を亡くし母、私、弟3人が残されました。進学を諦めた私は学生服を事務服に。この辞令が社会への第一歩です。(講話3参照)



70. 佐々木研吾 「国土地理院発行『地形図』」 2万5千分の1等の地形図。足跡を印した山野、都市の図は全部保存しており、眺めればその地の景観、風土が彷彿と脳裏に浮かぶ。



72. 矢崎安弘 「四国お遍路 納経帳」 私の人生最大の旅は四国八十八ヶ寺の歩きお遍路である。1400キロを47日要した。この納経帳はいまや私の大切な宝物である。



73. 山崎修司「片方の本立て」

高校3年以降、何時も小生の机上にあった。高校1年先輩の女性の卒業式の時に、彼女から贈られたもので、一方は彼女の嫁ぎ先？講話：北海道は苫小牧、彼女からこれを貰った時の情景を想い出す。雪がしきりに降っていた。後に彼女は牧場主と結婚した。



78. 橋本鋼二「『絹の道』命名と建碑資料」

父義夫は、廃道となった浜街道—鍾水峠越が生糸輸出の歴史を秘めた道であることを検証し、この道を「絹の道」と名付け「日本蚕糸業史跡」を示す記念碑を建てる努力をした。冊子「鍾水商人」(1955年)、「絹の道 多摩丘陵名所案内」(1956年)など展示。



81. 下田泰造「切絵 2点」

気力が溢れていた頃の私の作品。所見は、切り抜いた方と切り抜かれた方の両方が、切絵になっているところ。今ではとても出来ない。



74. 阿部治子「外国製時計」

祖父が洋行した時、母への土産です。母から長女の姉へ、そして七女の私と時代を越えて今だ「時」を刻んでくれている大切な思い出深い時計です。



79. 浅川文夫「野球場の砂」

捨てるに捨てられぬ夏の思い出。都立高校として、最初に出場した全国大会球場です。ユニホーム姿をみるのは、これが最後と思いながら、結局予選から全試合応援にかけつけました。



83. 八木啓充「わたしの創った歌(歌集)」

私の子供のために創った子守歌。あの彼女に捧げた歌。会社で成人を迎える人達に贈った歌。未発表の歌ですが、私の宝です。講話：独唱2曲、①娘のための子守唄、「夢の木」作詞水谷まさる、作曲八木啓充 ②息子のための子守唄、「子守唄」(カエルはコロコロ)作詞・作曲八木啓充。



84. 荒 正勝「女性誌に掲載された『アリサ』の写真」
アラ アリサです。美人でしょう！昔モデルだったの。運命って不思議ね。その前は野良猫だったの。



88. 池田ときえ「オルゴール」(Gone with the wind)

遠い遠い昔、初恋の人に貰ったオルゴール。大事にしまっていたんですが、今では孫のおもちゃです。思い出は風と共に去りぬ。講話：高校の同窓会で話しを聞くとオルゴールを貰ったのは私だけではなかったことが判明。



89. 東山 栄 「邦貨現行コインアルバム」
30年前に蒐集したコイン集。老円から百円まで年号順に122枚あり。オークションに出したらいくら値段がつくでしょうか？



90. 澤渡 進 「ピアカップ」

最も輝いた頃、大阪は北の新地のクラブに置いた専用のピアカップ。栄枯盛衰は世の習い、今は美人ママならぬ女房相手に缶ビールで晩酌。



91. 長谷川貴訓 「大きな昆虫」
10年前マレーシアで購入した標本です。家族からは「直ちに処分して！」と叫ばれましたが、捨てきれずに秘蔵しているものです。



92. 杉山友一 「ホールインワンカップ」
(ゴルフ歴36年 HC 12)

尋ねたゴルフ場は160、ラウンド数は1300回。ホールインワンチャレンジ5200回を超える中で、やっと仕留めたたった一度の幸運のモニュメント。



93. 岡本宝蔵 「免状・袴・帯」

私の健康の源、吟詠15年の成果（免状）。合気道10年、先生より頂いた袴と帯です。



95. 多村繁樹「明治元勳の写真・大版三国志・その他」

明治の元勳の殆どが納まっている集合写真（本物がどうか？）と全国の本屋で集めた故横山光輝の大版三国志（漫画本）。既に絶版となっている。



98. 川村 真「会報『窓』第1号」

『窓』は「旅を楽しむ会」の会報です。この会は全国の旅行好きの仲間に月刊誌『旅』で呼びかけ、昭和30年9月1日に発行したものです。



101. 佐々木 正 「50年以上前の子供の頃の写真」

父のアルバムにあった自分の写真で数少ないもの。その頃の父母や祖父母の顔も懐かしい。



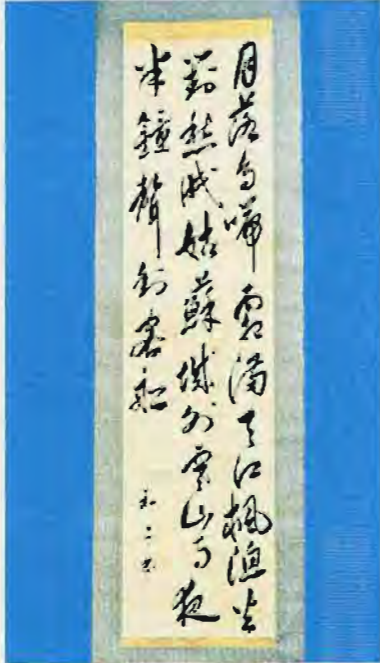
85. 阿部和也「歴代サトちゃんより大きなダニの写真」

- ・フトツメダニの顕微鏡写真……刺咬された女子のロッカー内で採取
- ・サトちゃんの三代歩み揃え
- ・猿年男を後押しする像……中国製



96. 山元哲夫
「母の残した書」

亡き母が80歳を過ぎて書き遺した書（3点）を形見にと掛軸にし、朝夕眺めながら、心とらんでいます。



東京八王子プロバスクラブ
創立1995.10.18

ハロバスだより

第135号

編集・発行・情報委員会
発行日 2007.2.8

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて プロバス・ライフを楽しもう』

第135回例会 日時：平成19年1月11日（木）17：00～18：30 場所：八王子エルシィ
出席者：61名 出席率：92%（会員総数67名 休会1名）

1. 下田例会委員長の司会で開会 2. 濱野会長挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。皆様お揃いで、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

「豊かさを求めてプロバスライフを楽しもう」という2006～2007年度のテーマも前半が終わりました。この間、八王子市民活動協議会への入会、地域行事への積極的な参加などで、わがクラブの存在感を示して行こうという活動は、それなりの実績を上げたのではないかと思います。年末には「年忘れ-私のお宝見せます」という当クラブ始まって以来の企画を実行しました。その結果、会員どうしのコミュニケーションの輪が更に広がりそれなりの成果を残し、充実した前半であったと思います。

後半は、2月から始まる生涯学習サロンも、11回目を数えるまでになりましたが、これに全力投球し、ご参加下さる方々が、サロンを十分楽しんで頂けるよう、特段のご支援とご協力をお願いします。

次に、先ほど別室で5周年以降のバスト会長さんにお集まりいただき、「今後のプロバスクラブをどのようにしていくか」というテーマで新春座談会を開催しました。非常に夢の多い話もあり、過去を振り返り、まだ十分でない部分もありましたが、夢を語って頂いたという点では非常に成功であったと思います。結果はプロバスだよりに掲載しますので、皆さん方、楽しみにして頂きたいと思います。

また1月1日で当クラブ会員の平均年齢を計算して貰いましたら、71.58才となりました。平成17年の平均寿命は男が78.53才、女が84.49才ですが、これを健康寿命で考え7才マイナスしますと、当クラブは健康寿命ぎりぎりの集団となります。しかしこれは努力すると8才ぐらいいは伸びると聞いておりますから、プロバスライフを楽しみながら、この健康寿命を伸ばす努力を是非して頂きたいと思います。

3. 来賓紹介・挨拶



東京八王子南ロータリークラブ 会長 廣瀬武彦様 副会長 加賀谷恵様 幹事 西小野道德様
廣瀬会長挨拶：明けましておめでとうございます。私は毎年元旦には高尾山に登ります。お坊さん方と森林警備隊の人達と一緒に、山頂にある東京オリンピックに使われた国旗掲揚台に日の丸を揚げ、君が代を斉唱し、万歳を三唱して、御来光を拝みます。

これを30数年続けていますが、初日がすっきりと上がったのは過去5回ぐらいいしかありません。下のほうには雲があったのですが、今年は綺麗に初日があがりました。今年は良い年になると思います。

4. 新会員紹介 宮城 安子氏



・紹介者 塩澤会員：宮城安子さんは30年位前から、教育委員会の青少年委員を始めとして、八王子レクリエーション協会理事や青少年団体でのボランティア活動を続けています。特にトリム体操の公認指導員の資格を取られた後、このクラブにも指導に来て頂くなどお馴染みの方です。数少ない女性会員ですので皆で可愛がっていただければ有難いと思います。

・新会員 宮城氏：トリムとはノルウエーの造船用語で船のバランスを取ることを意味します。これを体のバランスを取る意味に使い、動かさない筋肉も1日1回は動かして、心と体のバランスを取ろうというのがトリム体操です。いま人生80年を計算した時の余命が男性で22.17年、女性が27年とか云われていますが、いかに健康で楽しく生きるかが、これからの大きな問題ではないかと思

い、健康づくりに精を出している毎日です。

お知り合いも多くいて心強いのですが、どうぞ宜しくお願いします。

5. 幹事報告（鶴田幹事）

- 1) 入退会報告 入会：宮城安子（みやぎやすこ）会員（会員No102）所属 会員委員会。
退会：小塚和美会員（会員No86）退会日平成18年12月31日。
- 2) 会員の自主活動：①下田泰造会員が正月3ヶ日に高尾山で大道芸を披露。②土井俊玄会員1月17日（水）多摩コミュニティカレッジ主催の講演会で仏像に関する話を予定。③平原俊彦会員1月27日（土）学園都市センターで講演「歌で顧みる激動の昭和」を予定。（プロバスだより130号参照）
- 3) 生涯学習サロンが2月22日から始まります。これまで地域奉仕委員会主導で進められてきましたが、各委員会が何らかの形で係わり、全員参加でお客様が快く来場され、快くお帰りいただけますよう、各委員会の役割事項を打合せて頂き、未経験の会員もおられますので、各委員長さんのもとにサロンを成功に導いて頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

6. 各委員会報告

- 1) 例会 下田委員長：①本日の出席者数は61名、欠席者数は1名で出席率は92%です。②本日の配席はメインテーブルを除き全員くじ引きで決めさせて頂いた。③メインテーブルには第4代田子会長にお願いした。④年度後半に入り例会委員の役割分担をシフトした。不慣れ、不行き届きご容赦ください。
- 2) 情報 荒委員長：①お宝大会を収録したプロバスだより134号ができました。ご覧ください。②学習サロン分担業務の広報。11月に八王子市の後援名義使用の承認を得て、各紙にサロン開催案内の掲載を依頼。その結果1月7日朝日新聞、1月11日アサヒタウンズに掲載された。1月15日八王子市広報、1月19日ショッパーを予定。別途矢崎委員長担当で市民活動通信の1月号にも同様の記事が掲載された。
- 3) 会員 澤渡委員長：①会員動向は司会と幹事から報告があったので詳細は省略するが、まだ募集しなければならない状況なので、皆様からのご紹介を宜しくお願いしたい。②お宝大会お礼。プロバス会員らしい格調の高いお宝から、ユーモアに満ちた、懐かしい思い出の品々を46名の方々から出展頂き、またプロバスだよりでは、こんな立派な記録を残していただき、本当に有難うございました。
- 4) 研修 米林委員長：①卓話は2月～6月まで継続する予定です。皆様に卓話を依頼しますので、宜しくご協力下さい。②同好会について、活動状況を調査したいので、幹事の方々のご協力をお願いします。
- 5) 地域 矢崎委員長：来月からいよいよサロンが開催されます。話し手は100%確定しているが、司会、会場係りが未定です。地域奉仕のほうから直接お手伝いをお願いするのでご協力ください。

7. 同好会報告

- 1) 囲碁同好会 下山幹事：新会員が増えているので、囲碁同好会を紹介します。毎月第一、第三金曜日、午後1時より台町の市民センターで例会を開催しています。囲碁の好きな方は是非参加して下さい。
- 2) 歴史の会 澤渡会長：1月18日八王子郷土資料館で第5回開催予定。現在申込30名、受付今日中可。

8. 卓話「茶の薬用と効能」 阿部治子会員



私は茶道を嗜んでおりますので、日本の茶の歴史を少しお話し致します。鎌倉時代、栄西禅師が仏教を学ぶために中国に渡り、その時に茶の種を持ち帰りました(1191年)。その後、明恵上人により梶尾の高山寺（宇治の辺り）で茶は栽培され、それが各地に広まり現在に至っています。鎌倉時代は貴族の茶として薬用されていたが、室町時代にはお手前も少しずつ出来て、村田珠光、武野紹鷗、千利休へと受け継がれ侘茶となった。その後古田織部、小堀遠州、千宗旦により現代の茶道が築かれ確立しました。

茶の湯は総合芸術と言われており、茶室という稀有なる空間をなす建築物、露地という独自の庭、道具類には工芸品、書、和歌、花、また料理、菓子などと多くの芸術に関わりを持っております。

次に茶葉ですが、煎茶、玉露、抹茶があり、煎茶は日差しをいっぱいを受けて育った茶葉で作ります。玉露は茶園に日除けをして、葉緑素を増加させ、緑あざやかな玉露を作ります。抹茶は玉露と同じ方法で栽培し、蒸したのち葉脈を除去して乾燥させ粉末にして作ります。

さて茶の薬用ですが、栄西禅師の著「喫茶養生記」に、「茶は養生の仙薬なり、延命の好術なり」とあります。私たちは「一服にしようか」と云い、雑事の間に何気なく飲み、香りを楽しみくつろぎます。

・朝茶は三里戻っても飲む・風邪をひいたら番茶でうがい・熱が出たら茶に生姜と葱を入れ熱々で飲む・旅館に泊まると梅干と朝茶が出る（二日酔いを直し、胃をすっきりさせ朝食がおいしくなる）・茶腹も・刻（空腹を一時しのぐ）
・夏こそお茶をガブガブ・歯痛にもお茶をガブガブ（夏ばて、痛みをおさえる。）—この様にお茶は精神を高揚し、心に喜びと希望を与え、疲労感を軽減し、傷を癒し、便通を良くする、大脳に興奮を与え、抹消神経筋内の働きを高め、脳、身体機能をも活発にする。昔から云い伝えられた数々の諺や言葉が、現代医学によって正しい事が証明されています。

・英国ニューカッスル大学の科学者チーム「お茶の飲用がアルツハイマー予防になる可能性を指摘」(ロイター通信 2004.10.26)・東北大研究科栗山進一講師、認知障害で「緑茶1日2杯以上で効果あり」(読売2006.3.2)・東北大栗山助教授「脳梗塞、循環器疾患による死亡率低減」(宮城県内の40530人の11年間の追跡調査で緑茶の効用確認 (静岡新聞2006.9.15))・九州大研究グループ「緑茶カテキンがガン細胞の増殖を半減する」(日経2004.3.15)・厚生労働省の研究班「緑茶で胃がん予防、女性で確認」(朝日2004.8.4)ーこの様にガン予防、認知障害、胃ガン、老化予防、血糖値低下、疲労回復、高血圧、動脈硬化など、医学的にも効果が種々証明されています。医食同源という言葉のように、自分の身体を守るため、治療より茶を飲み、予防する食生活を大切にして頂きたいと思います。

9. 会長委嘱事項報告

1)当クラブのホームページ紹介(2007.1.1更新のトップページを資料とし配布) IT担当武田洋一郎会員：最初の頁を見ると今回は新年なので、新春の祝辞と濱野会長のご挨拶を載せている。頁左側には、赤文字で東京八王子プロバスクラブとあって、その下にプロフィール、会長挨拶、クラブ活動紹介、プロバスだより、トピックス、生涯学習サロンなど項目が並んでいる。これは詳細な内容が入っている書庫で、例えばプロバスだよりをクリックすると、第1号から133号まで今まで発行された総ての号が収められており閲覧できる。生涯学習サロンについても過去10回のデータが入っているなど、各項目をクリックすると当クラブの活動状況が総て判る様になっている。(各項目の概要説明があり)また、全日本プロバス協議会のホームページにも当クラブのプロバスだよりを掲載して、全日本の会員に見て頂いている。その意味でも中身をより濃いものにしたいので、皆さんから情報提供などご協力をお願いしたい。

2)全日本プロバス協議会の動向 同会 副会長立川富美代会員：昨年9月に第2回総会が尼崎で行われたが、来年は第3回総会を旭川で検討中。これは観光を含めての総会で会員は誰でも参加できるので決まったら是非参加して下さい。次に昨年決まった「各地のブロックの活動を進めよう」というテーマですが、近畿ブロックと北九州ブロックは交流が盛んで何回も実施されている。今年は近畿ブロックが京都で時代祭りに合わせ10月22日に大会を開く予定で、参加の案内が来ると思います。

また私も関東ブロックに所属しているが、13クラブ中10クラブ訪問しました。あと3クラブ残っているが、関東でも代表者会議が出来ればと思っている。この中で神奈川の4クラブは協議会を作り、6月頃から活動を始める予定。この様に日本中で交流が活発に行われる兆しが出てきている。八王子も交流が少しずつ出来れば良いなと思っている。

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会挨拶 宮崎副会長

今年も正月に大学の箱根駅伝が行われたが、これを大学側から見れば、知名度を上げる絶好の機会であると云えます。年々学生数が少なくなっていく中で、大学は生き残りを賭けて、箱根でサバイバルレースをしている。私も濱野会長が宣伝力を駆使して知名度向上に努めてくれましたが、まだまだ十分とは云えません。全員一丸となって頑張っていきましょう。

新年宴会18:30~20:30・司会 下田委員長・挨拶と乾杯濱野会長：今年は日本全国で初日の出が拝めた。紅白歌合戦で白組優勝の年は好景気とか、当クラブも今年が良い年になる様 乾杯！・余興 下田泰造①胡蝶の舞②南京玉すだれ③バナナの叩き売り。伝統の美枝と口上に大喝采

・閉会 宮崎副会長 ご出席の皆さんとご家族のご健康、ご多幸を祈念して「とうじめ」、おめでとう御座います。(例会記録 荒 正勝)



-胡蝶の舞-



-バナナの叩き売り-

~~~~~礼状受信~~~~~

素晴らしい「プロバスだより」第134号  
お送り頂き有難うございました。「私のお宝見せます」は本当にお宝物です。何時までも飽きずに眺めております。皆様は本当に素晴らしいお宝をお持ちで羨ましい限りです。余りにも素晴らしいのでつい礼状を送らせていただきました。

平成19年1月16日

全日本プロバス協議会副会長 吉川哲朗  
(神戸北プロバスクラブ 会長)



## 投稿

# マラソンされどマラソン

山元 哲夫

正月恒例の走り始めの神社廻り、朝6時さわやかにスタート、身も心も引き締め、3箇所の神社に参拝いたしました。走りながら、10年ほど前のニューヨークシティマラソンのことが鮮明に思い出されました。

11月の第一日曜日、朝5時、底冷えの厳しい冷え込みに負けず、スタッテン島フォートワース基地に向け、三々五々シャトルバスに乗り込み、ランナーたちが続々と集まる、3万人はいるでしょう。暖をとるためコ



ーヒを片手にパンをかじりながら、楽しそうに語らう仲間。黙々とウォームアップしている仲間。ウェアに身をすくめている仲間。それぞれの様子ですが、スタート時間が近づくと、色とりどりのウェアを脱ぎ始め、コンテナの中に捨て始めました。話には聞いていたのですが、私は着古しのウェアにちょっぴり自賁の念に絡まれながら、そっとコンテナに入れました。脱ぎ捨てられたウェアはボランティアが拾い集め、洗濯して、ホームレスや、施設に届けられるのだそうです。アメリカのランナーのボランティア意識を再確認して、スタートラインに並びました。

そのうち、若いアメリカ女性が5～6人、道路脇に走り出し見る間にパンツをずらして、オシッコをはじめました。すると次から次へと20～30人の女性が、1列に並んで丸いお尻をこちらに向けだしたのです。男性からのヤンヤのカッサイ。仮設のトイレが少なく、寒さのために我慢できなかったのでしょうか。

期待に、胸膨らませて、スタートしました。3万人を超えるため2箇所で同時スタートです。ニューヨーク湾の入り口、ナローズ海峡をまたぐベラザノ橋全体が3万人のランナーで埋まり、歩調がシンクロするたびに路面が揺れ始めました。すると、今度は男性が橋の上から、海に向かって、高い放物線を競うかのように、次々と並びだし、あたかも海からは航行する大型船が、一斉に汽笛を鳴らし歓迎してくれる、おおらかなスタートでした。

ブルックリンに入ると、応援の人、ひと、ヒト、また人、200万人を超える応援と言うから、ニューヨーク市民の4人に1人が詰め掛けている勘定です。子供たちは、キャンディやガムを、若い女性が、汗を拭くためのティッシュを、カントリーウエスタン、ロック、民俗音楽のバンドも生演奏で元気づけてくれる。沿道の応援にハイタッチで応えはじめていると、“哲夫さん頑張れ！”の声が、……そうです、女房が、地下鉄に乗って、寒い中待っていたのです。笑顔で応へ、知らず知らずに微笑んで走っている自分に気がきました。

クインズボロー橋を渡り、30km近くなると流石に足の筋肉が張り出してきました。元気なランナー、沿道からの温かい声援、とても立ち止まるわけにいきません。苦しみに耐えながら、やつとセントラルパークの入り口、ラスト1マイルです。ゴールから聞こえてくる実況のアナウンスに、最後の力を振り切りゴールテープを切りました。完走メダルを首にかけてもらい、ドリンクを口に含んだとたん、苦しかった事もすべて忘れてしまいました。また走ろうという気分になったのです。

ホノルルマラソン以来フルマラソンを20数回走りましたが、納得して走れたのはほんの数回です。何度も途中で苦しくて歩きました。その都度、もうマラソンはやめようと思うのですが、ゴールを過ぎると自然に又走ろうと、気持ちが変わるのです。マラソンは、本当に不思議な力を与えてくれるのです。大会の運営者、ボランティア、沿道の応援、そしてランナー、みなが一体となって盛り上げているのです。世界各地、日本各地でも、それぞれ趣向を凝らした大会は年毎に花盛りとなっているのです。このような大会に参加できること、本当に幸せであると実感しています。

当初から、女房とは2人3脚で、ランナーと、応援者として旅行をしているのです。スタートを笑顔で送り、ゴールで無事に完走できるか心配しながら待っている。感謝、感謝です。2007年も、館山若潮マラソン、湘南国際マラソン他、浦安、三浦と予定しています。充分トレーニングし、楽しいレースになることを祈って初詣を済ませました。走ることの楽しみ、苦しみを、家族に伝え、走る仲間との交流を深め、地域の子供や、中高年者にスポーツを通じてのボランティアと、微力ながら励んできました。今年も、明るく、楽しく、笑顔で走り続けます。